

事業の
ポイント

- ◇ 大学教授による調査分析を通じた英語力の多角的な把握を踏まえた指導改善
- ◇ 共通タスクやルーブリックの研究によるパフォーマンステストの質向上
- ◇ 小・中・高合同授業研究会やCAN-DOリストの共有による校種間連携の強化
- ◇ 地域の魅力発信や異校種交流事業による英語力を発揮する場の設定

当該地域における課題

① 生徒の英語力向上と学習意欲向上につながる指導と評価の充実

中学校・高等学校ともに、生徒の英語力に課題が見られる。要因として、言語活動を通じた資質・能力の育成が不十分なままパフォーマンステストを実施するなど、指導と評価の一体化が図られておらず、生徒が学習の達成感を得にくい状況が、英語力の向上や学習意欲の喚起を阻んでいるものと推察される。

<生徒の英語力> 中 A1以上：39.1%、高 A2以上：41.8% 【出典】R5英語教育実施状況調査より

<生徒の学習意欲> 中：英語の勉強が好き：49.7%、英語の授業の内容がよく分かる：56.2%

【出典】R5全国学力・学習状況調査 生徒質問調査より

② 「話すこと [やり取り]」の力の育成に向けた授業改善

学力調査の結果から、「話すこと [やり取り]」の力に課題が見られる。背景には、インプットの経験が不足した状態でアウトプットを求めている傾向があり、表現力を十分に育成できていないことが考えられる。

<平均正答率> 中 話すこと [やり取り]：10.6%（全国：14.5%）【出典】R5全国学力・学習状況調査より

③ 小・中・高の円滑な接続と系統的な資質・能力育成の推進

校種が上がるごとに言語活動の割合が低くなっている。資質・能力を段階的に育成するためには、各校種における言語活動の内容や成果を次段階へ円滑に引き継ぐ系統的な指導体制の構築が求められる。

<言語活動の割合（授業の50%以上）> 小：90.9%、中：76.3%、高：46.3%

【出典】R5英語教育実施状況調査より

2か年の取組内容

● 中学校ブラッシュアップ研究協議会【中】（課題①）

事業1年目に中京大学の巨理陽一教授（当時）へ英語教育実施状況調査の分析および学校訪問を依頼した。2年目はその知見に基づき、同教授を講師に迎え本協議会を開催した。全公立中学校の英語担当教員（各校1名）が参加し、各種学力調査を踏まえた授業改善策の協議や、県統一タスクを用いた単元計画作成演習を行った。講師からは本県の実態に即した授業プロセスやフィードバックの在り方について示唆に富む講話をいただき、参加者の課題意識に応える内容となった。さらに、作成した計画の自校実践と成果レポートを事後課題としたことで、研修成果の実践への移行と深い理解を促した。

● 高知の魅力発信グローバル人材育成事業【小中高】（課題①②③）

事業1年目と2年目に、それぞれ別地域の計8地域において、近隣の小・中・高等学校を研究推進校に指定し、12年間の学びを繋ぐ「CAN-DOリスト」の作成やパフォーマンステストの検証を通じ、資質・能力を育む授業づくりを推進した。各研究推進校では、研究協力校を含めたルーブリック研究や共通パフォーマンステストの実践等により、「指導と評価の一体化」の好事例を効果的に横展開した。さらに、年1回「小・中・高合同授業研究会」を開催。小中高連携「CAN-DO」リストを踏まえて、「話すこと [やり取り]」の力の育成を目指し、ALTとの協働による豊かなインプット・アウトプット機会の創出モデルを含めた取組を提示・発信することで、校種間で一貫した外国語教育の成果を地域内へ広く普及した。

● Discover Kochi Project【小中高】（課題②③）

研究推進校および希望参加校の代表の小・中・高校生（各校5名程度）が一堂に会し、地域の魅力を伝えるポスターセッションを2か年とも実施した。異校種の児童生徒とのグループ交流では、相手に応じて工夫しながら自己紹介や地域紹介、即興的な質疑応答を展開した。他地域や他校種の仲間と英語で実際に交流する経験を通じ、日頃の学習成果が相手に伝わる喜びを実感する貴重な機会となった。

取組に関する成果の検証

◆ 課題①に対する成果の検証

英語教育実施状況調査（図1）における「生徒の英語力」の経年変化を見ると、目標値の50%には達していないものの、中学生の英語力は向上傾向にある。この要因は、研修や学校訪問を通じて、パフォーマンステスト等による的確な見取りと学習意欲を高めるフィードバック、および指導改善の徹底を指導助言してきた成果と考える。

また、令和7年度の研究推進校（小・中）における児童生徒アンケート（図2）では、年度初めから年度末にかけて意欲の向上が見られた。これは、各研究推進校が児童生徒の達成感を重視した指導と評価の充実に取り組んだ成果であると考えられる。

◆ 課題②に対する成果の検証

R6・R7年度の各研究推進校の中学3年生を対象に実施した2技能（ライティング及びスピーキング）の外部機関テスト（図3）において、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合が目標値である50%をそれぞれ上回った。これは、ALTとの協働による豊かなインプット・アウトプット機会の創出や、育成すべき資質・能力を明確にした「指導と評価の一体化」に取り組んだ成果であると分析する。

◆ 課題③に対する成果の検証

令和7年度の研究推進校（小・中）の教員アンケート（図4）において、「校種間連携を意識した指導」の項目で肯定的回答が増加した。また、「小・中・高合同授業研究会」の参加教員アンケートでは、高等学校教員から、小・中学校の学習成果を意識した授業づくりや校種間連携の重要性に対する前向きな認識変容が確認された。これらのことから、小・中・高の円滑な接続を見据え、地域が一体となった系統的な指導体制の構築が着実に図られたものと推察される。

図1 生徒の英語力（県全体）（%）

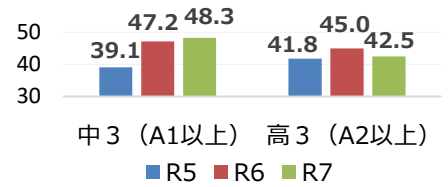


図2 児童生徒の意欲（推進校）（%）

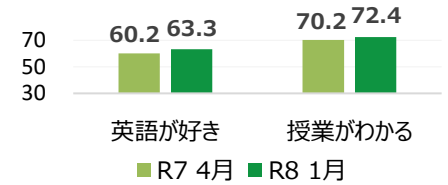


図3 外部機関テスト（推進校）（%）

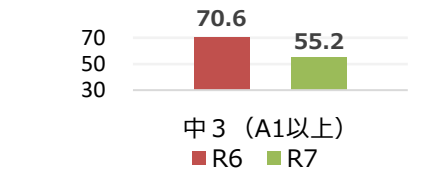
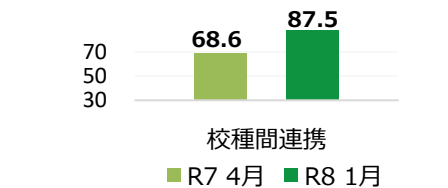


図4 教員アンケート（推進校）（%）



当該地域における成果の普及の取組

- 研究推進校や研究協力校で作成したパフォーマンステスト等の成果物を高知県教職員ポータルサイト「高知家まなびばこ」に掲載
- Discover Kochi Projectの様子（動画）を高知県教職員ポータルサイトにて発信

今後の取組

【生徒の英語力】 中学校：CEFR A1相当以上 50.0%、高等学校：CEFR A2相当以上 50.0%

- 校種間の接続と連携強化：指定校区での授業改善や「イングリッシュデイ」等の交流を通じ、発達段階に応じた一貫性のある英語教育を実施し発信力を育成する。
- 教員の専門性向上：教科ネットワーク事業や悉皆研修により、各種学力調査分析に基づく授業改善や英語での指導力を強化する。
- AIの活用推進：AIアプリの導入により、発話量の確保と個別最適なフィードバックを基にした指導を実現し、英語コミュニケーション能力を向上させる。

1 単元目標	友達の意見等を踏まえた自分の考えをまとめるために、「日常生活が健康に与える影響」などの英文を聞いたり、読んだりして、それを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら述べ合うことができるようにする。
2 評価規準	<p>[知識] 「主語+動詞(+人)+疑問詞節」や「tell/show+人+that～」の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。</p> <p>[技能] 日常生活が健康に与える影響などについて考えたことや感じたことなどを、本単元の新出表現や既習の表現などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>[思考・判断・表現] 友達の意見等を踏まえた自分の考えをまとめるために、日常生活が健康に与える影響などの英文を聞いたり、読んだりして、それを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら述べ合っている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 友達の意見等を踏まえた自分の考えをまとめるために、日常生活が健康に与える影響などの英文を聞いたり、読んだりして、それを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら述べ合おうとしている。</p>
3 パフォーマンステスト課題	初見の英文を聞いて(読んで)、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどをALTと述べ合う。
4 採点基準	<p>(条件) ①読んだ英文を引用するなどしている</p> <p>②自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている</p> <p>③相手の考えを求めたりしながら対話を継続している</p>

	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
		①引用する	②理由とともに述べる	③継続する	
a	誤りのない正しい英文で伝え合うことができる。	読んだ英文を効果的に引用するなどしている。	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに詳しく述べている。	相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したり、相手の考えを求めたり話題を広げたりしながら、やり取りしようとしている。
b	誤りが一部あるが、伝えたいことに支障がない程度の英文を用いて伝え合うことができる。	読んだ英文を引用するなどしている。	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。	相手の考えを求めたりしながら対話を継続している。	自分の考えを述べたり、読んだ英文を引用したり、相手の考えを求めたりしながらやり取りしようとしている。
c	友達や先生のサポートを受けて「b」を満たすことができる。	友達や先生のサポートを受けて、「b」を満たしている。			友達や先生のサポートを受けて、「b」を満たそうとしている。

目指す生徒のやり取りイメージ(b評価)

※事前に記入

ALT: Mr.○○ said he is getting heavier.
 Student A: Right. He also told us that he had been very busy. He thinks that it is good to have exercise on weekends. ①
 ALT: What advice can we give him?
 Student A: I recommend that he doesn't eat snacks. ②
What do you think? ③
 ALT: I agree. Snacks are bad for our health. He also eats dinner after nine because he works late. It is not good for him. So he needs to go home earlier.
 Student A: Good idea. He can also walk and run near his house when he has time. ②
 ALT: Yes. I agree. It isn't easy for him to walk but he can do it when he is free.
 Student A: OK. Let's tell him this advise.

bと評価した生徒のやり取り例

※事後に記入

Student A: He thinks about getting heavy. ①
 ALT: Yes, he is.
 Student A: So he try eat less. But he gets hungry soon.
 ALT: I see.
 Student A: I recommend salad chicken.
 ALT: Oh, I see. Why?
 Student A: It has high Tanpakushitsu. And low calorie. So I recommend salad chicken. ②
 ALT: Yes. It's a nice idea.
 Student A: What do you think? ③
 ALT: I think that is a nice idea but I don't think he will want to make salad chicken all the time.
 Student A: OK. Salad chicken... We can buy salad chicken at convenience store.
 ALT: How much is salad chicken?
 Student A: About two hundred yen.
 ALT: Nice. That's very cheap. Very easy.
 Student A: He can... He leave school late.
 ALT: Yes. How long does Mr.○○ work?
 Student A: Twelve hours.
 ALT: I think Mr.○○ should work less. What do you think?
 Student A: It's very hard because he is busy. ②

※Student Aの発話は、文法エラーも含め、そのまま書き起こしている。

パフォーマンステスト実施後の生徒へのフィードバック

- ・ALTから全体に対してコメントをし、良い点と課題点について振り返った。
- ・パフォーマンステスト後の授業で、生徒の良い振り返りを共有し全体で共通認識を持った。
- ・生徒一人一人がルーブリックを確認して、自己評価を行った。